

裏切りの紋章=「55.10確認書」

三里塚・ジェット闘争貫徹「国鉄35万人体制」粉碎

35万人体制粉碎へその4

前回は、今日の国鉄三五万人体制攻撃をはね返し粉碎してゆくためには、敵の軍事大国化という政治路線と対決する労働運動を構築してゆくことが絶対に必要であることを明らかにしてきました。今回は、国労、動労中央の「五五・一〇確認事項」と「本部」反動分子の裏切り路線に焦点をあてて、三五万人体制攻撃を見てみたいと思います。

「54年度監査報告書」を協定化したもの！

- ① 全国新幹線網を中心とする都市間輸送。
- ② 大都市圏の通勤・通学輸送。
- ③ 武操型貨物。

というビルド部分において、現在、徹底した労働強化・要員削減・民託化の攻撃が行われ、国労・動労中央が屈服を続けている状況は、全ての国鉄労働者が身をもって体験していることです。

国労・動労中央の三五万人体制攻撃への屈服の最大の紋章として、われわれは、「昭和五五年一〇月ダイヤ改正に関する確認事項」(以下「五五・一〇確認事項」と略す)を指摘しなければなりません。

「三五万人体制の初年度」である「五五・一〇」合理化に当って確認されたこの労使協定は、政府・国鉄当局の合理化指針ともいうべき、「五四年度監査報告書」の内容を、そのまま協定化したものであるといっても過言ではありません。

この「五五・一〇確認」の具体的中味が、「本部」反動分子の裏切りを突破口に強行されたかの助士廃止を上まわる「乗務員運用合理化」なのです。

合理化の尖兵Ⅱ「本部」反動分子

「五五・一〇乗務員運用合理化」を東京で率先して裏切り妥結し、「地方課題である」として当局に売り渡した「本部」反動分子に対して、全国の動力車職場から、「当局の合理化の尖兵だ!!」と怒りの声がわき上っていることは当然です。

「武操合理化」「貨物安定宣言」という「本部」反動分子の裏切り路線に対して、動労千葉をはじめ、動労内の戦闘的・良心的組合員が、全国大会

での修正動議をはじめとする闘いに決起し、全国大会で反動分子らのヤジと怒号の中で四割もの代議員が修正動議に賛成するところまで反動分子を追いつめたことは、動労組合員なら誰でも知っていることです。

この戦闘的・良心的組合員の当然の闘いを、暴力で封殺し、動労千葉を排除した「本部」反動分子は「片肺執行部」に追いこまれ、さらに、混迷を深め、昨年、第三六回全国大会では、戦闘的・良心的組合員からの反合闘争に関する修正動議を、ほぼ全面的に受け入れざるを得なくなっています。

スト破り集団に反合闘争は闘えない!

しかし、「本部」反動分子は、戦闘的・良心的代議員からの修正動議を、ただ、セクト的大会のり切り策としてのみ受け入れただけであって、ゴルフと酒食でガッチリと当局に足元を握られているが故に、第三六回全国大会修正方針を無視して、「五五・一〇確認事項」をもって、職場と労働条件を当局に売り渡してしまったのです。「労働組合は政治闘争を闘うべきではない」という確力・当局の論理を積極的に体现し、三月ジェット決戦闘争で、鉄労以下のスト破り集団にまで転落した「本部」反動分子が、まともに反合闘争を闘えるわけがありません。

われわれは、いまこそ、第三七回全国大会を「三〇周年記念」のシャンシャン大会で塗りつぶし、三五万人体制合理化攻撃に対する屈服と裏切りをいんべいし、セクト的立場から、動労の反合闘争をさらに高く当局に売りつけようとする「本部」反動分子の裏切り路線を糾弾し、「合理化絶対反対」を基軸にすえた反合闘争を創造し、闘いの実践を通して、全国の動労組合員・国鉄労働者に呼びかけ、動労大改革―戦闘的労働運動の再生をかちとてゆかなければなりません。

速報 昨日(6/4)核搭載空母ミッドウェイの入港に反対して、横須賀現地の闘争が雨をうけて断固として闘いぬかれた。動労千葉は青年部を中心に一五〇名の隊列で臨海公園の総評集会(予定)に参加し、闘争を貫徹した。更に怒りをもちえ立たせ、ミッドウェイ入港抗議・改憲阻止6000集会(予定)へ!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!